

平成25年度茨城県自殺防止対策モデル事業採択団体一覧表

	応募団体名 代表者名	所 在 市町村	事業の概要
1	公益社団法人 いはらき思春期保健協会 会長 皆川憲弘	水戸市	<p>「若い世代から発信する自殺防止の啓発活動」</p> <p>①ヤングボランティア啓発活動 ヤングボランティアが研修を積み、自ら啓発資料を作成して、各地域で朗読劇による自殺防止研修会や啓発活動を実施。 (※ヤングボランティア：大学生を中心としたボランティアで、思春期に関する研修を終了した者)</p> <p>②思春期における自殺予防のための講演会・研修会 若者の指導者を対象に、医師、カウンセラーや心理士等が、思春期の自殺の予防策として、事例や対応方法等を説明する講演会を実施。</p>
2	さざれの集い 茨城わかちあいの会 代表：大森	水戸市	<p>「自死遺族同士のわかちあいや自死遺族理解のための啓発」</p> <p>①自死遺族集会の開催（さざれの集い） 遺族同士の感情の共有を行い、後追い等の自殺予防に努める。</p> <p>②自死遺族会全国大会への参加 情報収集や事業展開の検討を行うことにより、対策の強化を図る。</p>
3	公益社団法人 認知症の人と家族 の会茨城県支部 代表：宮原節子	つくば市	<p>「認知症の人を介護している家族や本人を対象とする電話相談」</p> <p>認知症患者の介護家族等を対象に、認知症介護の経験者や、看護職従事者等が、時間帯を設定して無料の電話相談サービスを提供し、心のケアを図る。</p>
4	公益社団法人 茨城県看護協会 代表：村田昌子	水戸市	<p>「一般住民への自殺予防啓発事業」</p> <p>①メンタルヘルスに関する研修会の開催 地域において積極的に活動している住民等を対象に研修会を開催し、心の健康や自殺の実態、自殺のサイン等について周知を図る。</p> <p>②自殺予防啓発活動の実施 集客が見込まれるPR効果の高いイベントや、ショッピングセンター等にて実施する「まちの保健室」の場を活用し、啓発資料・グッズ等を配布し、心の健康や相談機関等についての周知を図る。 (※まちの保健室：保健師・助産師・看護師が病院や診療所ではなく地域のショッピングセンター等で実施する健康に関する無料相談)</p> <p>③会員施設等での啓発資料の配布 病院・診療所等に、自殺予防や心の健康に関するパンフレットを配布し、施設の受付窓口等に設置することにより、県民が心の健康や自殺予防についての知識を習得する機会を増やす。</p>

	応募団体名 代表者名	所 在 市町村	事業の概要
5	公益社団法人 茨城県栄養士会 会長：政安静子	水戸市	<p>「生きる「絆」自殺防止対策事業」</p> <p>①広報キャンペーン つながる”わ”， ささえる”わ” をキャッチフレーズにした啓発グッズ（メモ帳）を作成し，健康フォーラム・イベント等で配布。</p> <p>②自殺防止研修会 栄養士会会員，一般県民等を対象に，食生活や栄養に関連した内容を実施し，心身ともにバランスが取れ，健康となるような食事・栄養を学ぶ研修会を実施する。</p>
6	認定特定非営利活動法人 いばらき子どもの虐待防 止ネットワークあい 理事長：坂本博之	水戸市	<p>「オレンジライン事業」</p> <p>オレンジライン 電話相談の専門スタッフ2名が常駐し電話相談 (毎週月・水・木曜日の3日間，10：00～15：00)</p>
7	一般社団法人 茨城県助産師会 代表：工藤登志子	那珂市	<p>「助産師無料電話相談」</p> <p>①助産師なんでも電話相談 相談員（助産師）による電話相談の実施（平日10：00～15：00）</p> <p>②電話相談研修会 育児不安のある母親に対して電話相談を行う際の対応方法について研修を実施</p>
8	茨城県産婦人科医会 会長：青木雅弘	水戸市	<p>「メール相談事業」 産婦人科医による，身体的変調に伴うメンタルヘルスの相談を電子メールで実施。</p> <p>「産後うつ・更年期うつ」のリーフレット啓蒙活動」 全県の医療機関，県内保健施設，市町村へ配布するとともに，「女性のための健康セミナー市民公開講座」にて一般の方へも配布して周知を図る。</p>
9	特定非営利活動法人 まちなか交友館まどか 代表：渡辺隆生	つくば市	<p>「認知症高齢者の家族介護者に対するこころの健康支援事業」</p> <p>①居場所づくり 平日9：30～15：30の間，自由に出入り可能なスペースを設け，専従の介護福祉士等が，認知症患者本人や家族の悩みを傾聴，支援する他，家族同士の悩みや経験を共有できるようピアカウンセリングを実施。</p> <p>②電話・メール相談 平日9：30～15：30の間，専用電話及びファックスによる相談を行う。また，上記時間帯以外での相談についてもメールで実施。</p>

	応募団体名 代表者名	所 在 市町村	事業の概要
10	一般社団法人 日本産業カウンセラー協会 東関東支部 支部長：橋本武雄	ひたちなか市	「茨城無料カウンセリング」 茨城事務所（ひたちなか市）において、毎月1回（日曜日）の10時～17時に実施。 相談時間は概ね1時間弱。産業カウンセラー2名が待機し、対応。
11	特定非営利活動法人 元気UPヒアリングセンター 代表：平塚和史	下妻市	「メンタルガイド養成事業」 ①研修会の開催 孤独感への対応と心の仕組みをテーマに産業カウンセラーが講師となり、前期研修会、自宅研修、後期研修会の3段階に分けて研修を実施。全ての研修修了者に対し、メンタルガイドの資格証を発行し、動機付けを強化。 （※メンタルガイド：うつ病や自殺の抑止力となり得る人材） ②スキルアップサポート 研修会受講者からの相談を受け、スキルアップをサポートする。
12	認定特定非営利活動法人 水戸こどもの劇場 代表：森田多美子	水戸市	「ファミリーワークショップと研修会の開催」 ①家族関係を考えるグループワークの実施 ファシリテーター（中立的な立場でプログラムを進行する人）を入れ、家族のこと、自分のこと、何でも自由に話し、考えることのできるワークショップを開催。（毎月第3火曜日） ②課題解決型グループワークの実施 課題ごとにゲストを招き、体験談を聞くとともに、集まった人たちがつながり、課題解決に向かっていくためのワークショップを開催。 ③研修会の開催 専門機関の有効かつ適切な活用を知らせる講座を開催。
13	特定非営利活動法人 千葉県東葛地区 生と死を考える会 代表：水野治太郎	柏市	「市民対象の喪失悲嘆のグリーフケアの啓発のための講演会」 講演会の開催によって、一人でも多くの悲嘆を抱える方の心をケアする事、また多くの方々にグリーフケアの必要性を認識していただくことで自殺防止につながる。 （※グリーフケア：近い人を亡くした人がその悲嘆を乗り越えようとする心の努力を支援すること。） 「独居老人を元気づけるための各種行事や会合の開催」 独居老人の方々を対象に、健康体操、絵葉書の作成、手作り作品の作成などを行い、人と人との心の触れ合いの機会を増やして、広く社会において死別の悲嘆で苦しむ方々の孤立化や自殺を防ぐ。
計13団体			